

元気に な～れ

304

『幼児期に出会った 絵本は財産』

今月は

保健師 中村由香里です

みなさんは、幼い頃読んでもらった絵本の記憶はありますか？

ほんわか温かい、ほっとする絵本の時間。我が家では読み聞かせが入眠儀式となっており、大人にとっても至福の時間です。人によっては「読むのは上手じゃないし、めんどう…」とお子さんに読み聞かせをしていない人もいるかもしれません。しかし、身近な人が物語を読んでくれるというだけで、お子さんにとっては大きな意味があるようですよ。上手い下手は関係なし！大切なポイントはお子さんと一緒になって楽しむこと。

さっそく今日から、読み聞かせを始めてみませんか？



たくさんの言葉に出会います

幼い頃は言葉を獲得していく大切な時期。大人たちが話しかける「話し言葉」に加え、絵本の読み聞かせによる「書き言葉」を聞くことで、子供の語彙（ボキャブラリー）はより豊かになります。

子供の想像力が育ちます

優れた絵本を読んであげると、次はどうなるのかな…と子供はわくわくしながら次のページが開かれるのを待ちます。自分で考える力、創造の力が育っていきます。ゆっくりとページをめくるのがコツだそうです。



「もこもこ」さんによる読み聞かせの様子

繰り返し読むことの意味

一度読んだ本に関しては、二度目以降の読み聞かせでは子どもの反応が多くなることがわかっています。これは、子どもに自分で考える認知的な余裕ができた証拠。繰り返し読むことは、大人からみると一見無駄に思えるかもしれません、子どもの求めに応じて繰り返すこと、それ自体が、安定感を生み出し、対話することの楽しさ、絵本の面白さを確認し味わうといった効果もあるようです。

函館大谷短期大学学長 福島憲成氏 「読み聞かせ」実践講座より一部抜粋

ブックスタートを行っていきます



ブックスタートとは、絵本を通して、赤ちゃんと保護者がゆっくりと心ふれあうひとときを持つきっかけを作る活動です。

町では、6ヶ月児相談の会場で絵本を手渡しでプレゼントするとともに、ボランティアによる絵本の読み聞かせを体験してもらっています。他にも、3歳児健診、つくしの子サークル等でも、絵本とのふれあいの場を提供しています。平成25年7月時点でプレゼントを渡した6ヶ月のお子さんの数は総勢300名となりました。

平成16年度から始めたこの事業ですが、ブックスタートを最初に体験した子達は、現在小学校3年生。たくさん絵本は読んでいただけたでしょうか？ボロボロになった絵本を期待して…！

お子さんの健やかな成長を祈っています。



このような絵本をプレゼント♪